

住民参加のワークショップによる京都府宮津駅待合スペース改修の実践的研究

A Practical Study Through a Workshop with Local Residents on the Renovation of Waiting Space in Miyazu Station, Kyoto

○ 高木真人^{*1}、村上明日香^{*2}、角田暁治^{*3}

Masato TAKAGI, Asuka MURAKAMI, and Akira KAKUDA

We arranged the workshop to reflect local residents' views on the renovation of the waiting space of Miyazu Station in Kyoto. Firstly, we attempted to clarify what kind of functions or designs they needed. Secondly, based on the results of the first workshop, we conducted questionnaire to users in Miyazu Station and gathered many answers. So, we understand their needs more precisely. Through the workshop and questionnaire, we decided our main concepts of how to design. In the second workshop, four teams of our students presented their ideas, and we discussed again. Following these processes, we presented the final idea in February 2023. This time, the combination of the workshop and the questionnaire was very useful.

Keywords : Workshop, Questionnaire, Station, Waiting Space, Local Residents,

ワークショップ、アンケート、駅、待合スペース、地域住民

1. 研究の背景・目的

近年、駅舎改修など公共事業の計画・設計において住民参加のワークショップを開催することが多くなっている。木下勇が『ワークショップ-住民主体のまちづくりへの方法論¹⁾』において指摘しているように、住民の意見を汲み取る・合意形成のためにワークショップは非常に有効である。また、久保貴生らはワークショップにより温泉地の空き旅館の活用法と今後の温泉地再生の方向性を探ろうとし²⁾、木村智彦、松本直司らもワークショップにより、中山道大湫宿の住民意識を把握し、今後の景観とまちづくりの方向性を探ろうとしている³⁾。

京都府北部に位置する宮津市は、日本三景の天橋立が有名であり、その天橋立駅の一駅手前に宮津駅がある。2022年、宮津駅では「京都府駅周辺にぎわいづくり推進事業費補助金」を活用し、賑わいの創出や若者・子育て世代にとって使いやすい駅を目指して、待合スペース改修を実施することとなった。改修の対象となっている宮津駅待合スペースは330㎡と小規模であり、コロナ禍前の2018年における1日平均乗降客数は729人であ

る。改修前は待合スペースに加え、多目的ルーム、店舗、旅館組合事務所、喫茶店（閉店）、カフェ、便所、倉庫などから構成されていた。宮津市は、この待合スペース改修の基本計画を策定するために住民参加ワークショップを開催しようと考え、京都市芸繊維大学に学術指導の協力を依頼したことにより、我々教員と大学院生で宮津市とともにワークショップを実施し、基本計画・設計を提案することになった⁴⁾。

こうした背景のもと、我々は住民がどのような待合スペースを求めているのか明らかにするために、計3回の住民参加ワークショップを実施し、またその精度を上げるためにアンケートを実施し、その結果にもとづいて待合スペースの改修提案を行うこととした。ワークショップとアンケートを併用することにより、双方のメリットを活かせると考えたのであるが、それぞれのメリット、デメリットについて実践を通し明らかにし、また互いのデメリットを補うことで、住民の声をより正確に反映させることを目指した。つまり、住民の求める待合スペースを明らかにすることに加え、こうした手法の有効性を検証しようというのが本研究の目的である。

*1*3 京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科 教授・博士（工学）
*2 三寿地所 修士（工学）

Prof., Graduate School of Science and Technology, Kyoto Institute of Technology, Dr. Eng. Mitsubishi Estate. M. Eng.

2. 研究の方法

ワークショップでは、様々な立場からの意見を反映させられるように、宮津市が様々な立場の参加者を選定した。

1回目のワークショップは2022年11月に実施した。高校生・大学生や子育てサークルのメンバー、地域の観光・鉄道関係の方など地域住民11名に集ってもらい、現状の待合スペースおよびその周辺に対する意見および新しい待合スペースに望む機能や雰囲気・デザインについて話し合いながら意見を集めた。

続いて、このワークショップの結果を踏まえてアンケートを作成し、1回目のワークショップで出された意見についてどういった機能・デザインが特に望まれているのかを分析した。そして、その結果をもとに、京都工芸繊維大学の大学院生が宮津駅待合スペースの設計案を4案作成した。

2回目のワークショップは2022年12月に実施した。1回目のワークショップと同じように地域の住民6名が集まり、この設計案について様々な意見を出してもらった。このワークショップで得られた意見をもとに最終提案としてまとめ、2023年2月に第3回ワークショップを開催し、地域住民に発表した。その結果を受けて、再度、提案の修正はしているが、基本的には最初の2回のワークショップとアンケート調査により提案を作成している（表1）。

表1 待合スペース改修の最終提案までの流れ

	実施日	参加者	概要
第1回WS	2022/11/13(日) 14:00-16:00 @宮津駅	〈計11名〉 高校生5名 大学生1名 一般5名	1. WS開催主旨の説明 2. 駅改修事例の紹介 3. 改修対象となる待合スペース及びその周辺を視察・確認 4. 現状の駅に対する意見 5. 新しい待合スペースに期待する機能 6. 新しい待合スペースに期待する雰囲気・デザイン
アンケート	2022/11/22 ～ 2022/12/22	〈計256名〉	1. 属性（所属/年齢/性別/住所） 2. 普段の駅利用について（利用頻度/待合スペースの使い方/乗車以外の利用） 3. 新しい待合スペースに期待する機能 4. 新しい待合スペースに期待する雰囲気・デザイン 5. 宮津でよく行く場所・自慢
設計案作成		本学大学院生	4つの提案を作成
第2回WS	2022/12/18(日) 15:30-17:30 @宮津駅	〈計6名〉 高校生3名 一般3名	1. WS開催主旨の説明 2. 第1回WSの報告 3. アンケート途中経過の報告 4. 新しい待合スペース提案の発表 5. 4つの提案に対する意見交換
最終案作成		本学大学院生	第2回WSを踏まえて最終提案作成
第3回WS	2023/2/4(土) 15:00-17:00 @宮津駅	〈計6名〉 高校生3名 一般3名	1. 最終提案の発表 2. 最終提案に対する意見交換 3. 宮津駅周辺の賑わいづくり/道の駅へ誘導する工夫・仕掛けについての意見交換

3. ワークショップからみる提案の方向性

1) 改修前の待合スペースおよびその周辺の概要

1回目のワークショップでは、地域住民に駅の改修事例をいくつか紹介した後で、一緒に改修対象となる待合スペースおよびその周辺を見て回った（図1,2）。その後、11名の参加者を3グループに分け、現状の待合スペースおよびその周辺に対する意見を、付箋に書いて横造紙に貼っていくという方法で出してもらった。出された意見の中には新しい待合スペースに期待する要望とも取れる意見も含まれていたが、それはここでは除き、現状に対する意見のみでまとめた（表2）。待合室には地域の高校生により作られたベンチが配置されており、この待合室やトイレについては、満足度が高いが、電車を待つホームについては、やや不満がみられた。新型コロナ以降、喫茶室や貸し店舗は空いたままとなっている。



図1 改修前の待合スペース（左）とワークショップの様子（右）

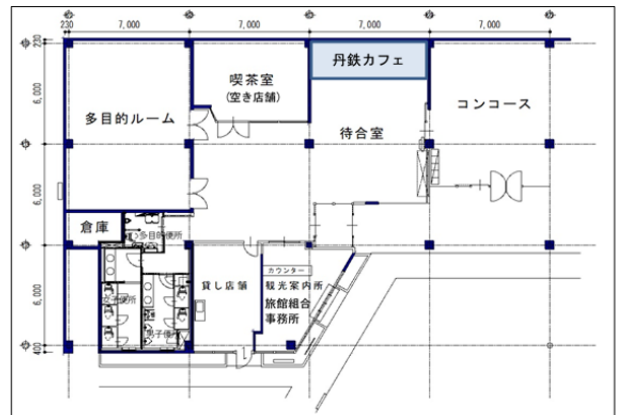


図2 改修前の待合スペース平面図

表2 改修前の待合スペースに関する意見

場所	意見	人数	
待合室	ベンチがあっていい	1	満足
	エアコンが効いて快適	1	満足
	明るい印象	1	満足
	ベンチで話す	1	
	飲食する	1	
	コロナ禍でも制限されていない	1	
	掲示板はいつも見ている	1	
トイレ	きれい	1	満足
多目的ルーム	利用しやすい	1	満足
カフェ	平日のみ開けている	1	
	利益がでず厳しい	1	
貸店舗	パン屋やおにぎり屋さんがあった	1	
	うどん屋で食べたことがあった	1	
	印象がない	1	
ホーム	スマホで時間つぶし	1	
	待合室からのせり出しで危ない	2	不満
	椅子の座り心地悪い	1	不満

2) 新しい待合スペースに期待する機能・空間

3つのグループそれぞれにおいて、新しい待合スペースに期待する機能・空間についても同様に付箋を用いて意見を出してもらった。なお、「新しい待合スペースに期待する機能・空間」に対して出された意見でも「新しい待合スペースに期待するデザイン・雰囲気」で集計しているものもあり、また「新しい待合スペースに期待するデザイン・雰囲気」に対して出された意見でも「新しい待合スペースに期待する機能・空間」として集計しているものもあり、内容に合わせて入れ替えて集計している。特に多かった意見としては、机・カウンターや椅子の配置など「インテリア」に関するものと、「観光・地域」に関するものであった。他には、「親子向け」「設備」「災害対応」「飲食・店舗」「その他」に分けられる(表3)。

表3 新しい待合スペースに期待する機能・空間

分類	期待する機能・空間	人数
親子向け	キッズスペース(畳・クッション)	2
	お絵描き用ホワイトボード	1
	乳児用設備(授乳室、おむつ替えコーナー、ミルク)	1
設備	Wi-Fi	2
	コンセント	1
	無料給水機	1
	運行状況確認システム	1
	EV設置	1
インテリア	勉強机・カウンター	3
	長時間座れる椅子・椅子の配置	3
	雑誌・漫画・図書の棚	2
	和室	1
地域・観光	観光案内、おすすめスポット	4
	宮津グッズ、ガチャ	1
	地域展示・作品展示	3
地域	地域交流	1
	災害対応	災害時の避難機能
飲食・店舗	コンビニ・KIOSK	2
	おにぎり屋さん	1
	パン屋さん	1
	飲食・店舗が欲しい	1
その他	何かしらの無料サービスの提供	1
	友達と1人1人で過ごせるスペース	1
	バスの待合と兼用	1

3) 新しい待合スペースに期待するデザイン・雰囲気

3つのグループそれぞれにおいて、新しい待合スペースに期待するデザイン・雰囲気について意見を出してもらった。現在の待合室からは、多目的ルーム~喫茶室~丹鉄カフェにより電車の通過するホームを見ることができない。そして、バス停がある駅前広場も観光案内所などにより見えない。そのため、「外やホームが見える空間」「開放的な空間」が求められているのであろう。また、「宮津らしさ」も求められている。そして、全体的に、リラックスできる・落ち着いた、暖かみのある、柔らかな、という「やさしいデザイン」が求められているともいえる(表4)。

表4 新しい待合スペースに期待するデザイン・雰囲気

分類	期待するデザイン・雰囲気	人数
開放性	外やホームが見える空間	9
	開放的な空間	3
宮津らしさ	宮津らしいデザイン	7
鑑賞物	鑑賞物のある空間	4
やさしいデザイン	リラックスできる・落ち着ける空間	6
	暖かみのある空間	3
	柔らかさのある空間	2
	木の空間	2
その他	バリアフリーに配慮された空間	2
	にぎわいのある空間	2
	コンクリートの空間	1
	学生が関わるデザイン	1

4. アンケートからみる提案の方向性

第1回目のワークショップでは、様々な立場・年代の人から様々な意見を集めることが主目的であった。その結果、「親子向け」「設備」「インテリア」「地域・観光」「災害対応」「飲食・店舗」などの機能・空間が期待され、「開放性」「宮津らしさ」「鑑賞物」「やさしいデザイン」などのデザイン・雰囲気が期待されていることが分かり、ヒントを集めることができた。しかし、母数は少ないので、地域住民や駅利用者にとって、特に要望が高いものを把握したいと考え、アンケートを実施した。アンケートは、GoogleFormsによるオンラインアンケートをワークショップ参加者の職場・サークルや学校を中心に依頼するとともに、駅待合室の利用者に対して直接アンケート用紙に記入してもらうことで、合計256の有効回答を得た。アンケートに回答してくれた回答者のうち、10代の高校生が特に多く、20~40代の会社員・公務員がこれについて多くなっている。居住地については、宮津市内、および宮津市にアクセスがよい京都府北部が多くなっているため、回答は地域の意見を反映しているといえる(表5,6)。

表5 アンケート回答者の年代・性別

年代	人数	割合	性別	人数	割合
~10代	95	36%	男性	117	46%
20代	30	12%	女性	135	53%
30代	38	15%	その他・不明	4	1%
40代	52	20%			
50代	22	9%			
60代	18	7%			
70代~	1	1%			

表6 アンケート回答者の所属・居住地

所属	人数	割合	居住地	人数	割合
中学生	3	1%	宮津市内	124	48%
高校生	91	36%	京都府北部	96	38%
大学生・大学院生	8	3%	上記以外の京都府	5	2%
会社員・公務員	101	39%	京都府以外	20	8%
自営業	14	5%	無回答・不明	11	4%
主婦・パート	26	10%			
無職・フリーランス	4	2%			
その他・不明	9	4%			

「週に2,3回」以上利用している人を利用頻度が高い人とすれば、全体では101人(39%)であるが、高校生が含まれる10代においては、利用頻度が高い人は71%にもなる(表7)。それ以外の世代での利用頻度が高い人の割合と比較しても、高校生の利用頻度が非常に高く、高校生のニーズに合わせる必要もあるといえよう。ワークショップに参加した地域住民によると、地域住民の多くは日常的には自動車を使用することである。こうしたことも踏まえて、以下の分析では、[中高生(中学生3名+高校生91名)]と[それ以外]を比較しながら分析していくこととする(表8,9)。

新しい待合スペースにどのような機能・空間を期待するかという質問の(親子向け)に関するものとしては、「おむつ替えコーナー(37%)」「授乳室(36%)」などへの期待が比較的高かった。〈設備〉に関しては、「Wi-Fi(75%)」や「運行状況確認システム(61%)」への期待がとて高かった。〈インテリア〉に関しては、「テーブル・カウンター(57%)」や「快適な椅子(49%)」に対する期待が高いが、「話し合いができるような椅子の配置(25%)」を含め中高生からの要望が多い。〈地域・観光〉に関しては、「地域の観光案内(55%)」のように観光地としてアピールしたい意見が多いが、地域のための機能も求められていた。〈飲食・店舗〉への期待はとて高かったが、店舗側で採算が取れるかが課題のようである。

表7 回答者の世代と駅利用頻度の関係

年代	週2,3回以上	週1~月1回	年に数回以下	不明・未回答	計
10代	67(71%)	10(11%)	17(18%)	1(1%)	95
20代	7(23%)	7(23%)	13(43%)	3(10%)	30
30代	5(13%)	6(16%)	26(68%)	1(3%)	38
40代	11(21%)	5(10%)	33(63%)	3(6%)	52
50代	5(23%)	1(5%)	16(73%)	0(0%)	22
60代~	6(32%)	1(5%)	12(63%)	0(0%)	19
全体	101(39%)	30(12%)	117(46%)	8(3%)	256

※表中の網が利用頻度が低いことを示しており、30%50%70%を超えることに違っている。
また、()内の%は四捨五入しているため、各年代の合計が100%にならない場合もある。

表8 新しい待合スペースに期待する機能・空間

親子向け	中高生 (n=94)	それ以外 (n=162)	合計 (n=256)	無料設備	中高生 (n=94)	それ以外 (n=162)	合計 (n=256)
おむつ替えコーナー	16(17%)	79(49%)	95(37%)	Wi-Fi	74(79%)	118(73%)	192(75%)
授乳室	18(19%)	74(46%)	92(36%)	運行状況確認システム	59(63%)	98(60%)	157(61%)
キッズスペース(フロアM)	20(21%)	56(35%)	76(30%)	コンセント	38(40%)	61(38%)	99(39%)
キッズスペース(壁置き)	16(17%)	27(17%)	43(17%)	無料給水器	32(34%)	28(17%)	60(23%)
お絵かき用ホワイトボード	11(12%)	28(17%)	39(15%)	その他(自由記述)	スマホ/USB充電3、ピアノ3、荷物預かり/ロッカー2、ATM2、ほか12		
ミルク用お湯の提供	8(9%)	31(19%)	39(15%)	地域・観光	中高生(n=94)	それ以外(n=162)	合計(n=256)
その他(自由記述)	鉄道を楽しむスペース5、図書・絵本2、遊具2、キッズスペース(テーブル)2、ほか15			地域の観光案内	35(37%)	110(68%)	145(57%)
インテリア	中高生(n=94)	それ以外(n=162)	合計(n=256)	災害時の避難機能	29(31%)	69(43%)	98(38%)
テーブル・カウンター(学習用・飲食用等)	67(71%)	80(49%)	147(57%)	宮津グッズ・ガチャ(展示販売)	29(31%)	76(47%)	105(41%)
快適な椅子	56(60%)	70(43%)	126(49%)	地域に関する展示	28(30%)	48(30%)	76(30%)
話し合いができるような椅子の配置	39(41%)	26(16%)	65(25%)	地域が交流できる場	16(17%)	40(25%)	56(22%)
雑誌・漫画・図書の棚	25(27%)	27(17%)	52(20%)	その他(自由記述)	バス案内所2、自転車貸出2、ほか8		
その他(自由記述)	分かりやすいサイン計画2、ほか16			飲食・店舗	中高生(n=94)	それ以外(n=162)	合計(n=256)
				コンビニ・KIOSK	78(83%)	132(81%)	210(82%)
				パン屋さん	48(51%)	63(39%)	111(43%)
				おにぎり屋さん	42(45%)	56(35%)	98(38%)
				その他(自由記述)	カフェ/コーヒーマーカー9、食べ物自販機4、弁当4、ほか15		

※表中の網が利用頻度が低いことを示しており、30%50%70%を超えることに違っている。

新しい待合スペースにどのようなデザイン・雰囲気を期待するかについて、〈デザイン〉に関しては「外やホームが見える空間(52%)」や〈雰囲気〉に関しての「開放的な空間(41%)」などの期待度が高く、開口部の工夫が必要といえる。また、〈雰囲気〉に関しての「リラックスできる・落ち着ける空間(66%)」や「暖かみのある空間(41%)」が高いことから、素材として木材を用いるなどが考えられるであろう。さらに、〈デザイン〉に関して「宮津らしいデザイン(33%)」への期待も高いが、〈宮津の自慢〉は何かという質問に対する回答がそのヒントとなるであろう。それは、やはり「海(21%)」であり、また「海」「天橋立」「自然」は、いずれも日本三景の天橋立に代表される海の自然と括ることができる。そして、「食事」も新鮮な魚介類が豊富であるということなので、海に関係する。一方、天橋立は細長く伸びる砂洲と松並木の景観が特徴であり、その松や松並木越しに見る海の景観が宮津らしい木による景観として捉えることができる。

表9 新しい待合スペースに期待するデザイン・雰囲気

デザイン	中高生 (n=94)	それ以外 (n=162)	合計 (n=256)	雰囲気	中高生 (n=94)	それ以外 (n=162)	合計 (n=256)
外やホームが見える空間	41(44%)	92(57%)	133(52%)	リラックスできる・落ち着ける空間	76(81%)	97(60%)	173(68%)
バリアフリーに配慮された空間	44(47%)	81(50%)	125(49%)	暖かみのある空間	41(44%)	69(43%)	110(43%)
宮津らしいデザイン	32(34%)	58(36%)	90(35%)	開放的な空間	33(35%)	72(44%)	106(41%)
鑑賞物のある空間(水櫃・観葉植物等)	25(27%)	33(20%)	58(23%)	柔らかさのある空間	18(19%)	33(20%)	51(20%)
にぎわいのある空間	23(24%)	30(19%)	53(21%)	その他(自由記述)	清潔感のある空間5、明るい空間2、安心安全な空間2、ほか9		
学生によるデザイン	26(28%)	26(16%)	52(20%)	宮津の自慢	中高生(n=94)	それ以外(n=162)	合計(n=256)
その他(自由記述)	清潔感のある空間3、木の空間2、開けた観光案内2、ほか6			海	13(14%)	39(24%)	52(20%)
				食べ物・食事	5(5%)	25(15%)	30(12%)
				自然・景色	8(9%)	17(10%)	25(10%)
				天橋立	2(2%)	14(9%)	16(6%)
				人	3(3%)	8(5%)	11(4%)
				その他	のんびり・静か6、ミッパン・にっこりあ5、歴史・文化4ほか13		

※表中の網が利用頻度が低いことを示しており、30%50%70%を超えることに違っている。

以上をまとめて、新しい待合スペースの機能・デザインの主要な方向性を「外やホームが見える開放的な空間」「テーブルや椅子及び配置の工夫」「駅としての機能に加えてのプラスαの機能」「宮津らしいデザイン」を中心とすることに決定した。さらに、あまり意見としては出てこなかったが、宮津駅の待合スペースは電車だけではなく、バスの待合スペースも兼ねるため、視認性やアクセスのよさなど「バス停とのつながり」も必要であると考えて、これらを念頭に提案を考えることにした(図3)。

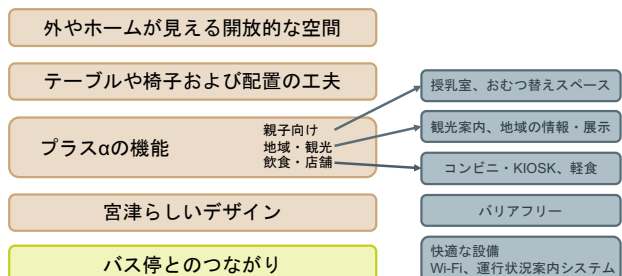


図3 新しい待合スペース提案の方向性

5. 新しい待合スペースの提案

第2回目のワークショップでは、大学院生が考えた上記の方向性を満たすような提案を4つ発表・提示した(図4)。

「外が見える開放的な空間」については、A案、B案ではホームが見える窓際にカウンターを設置し、D案ではホームに面したテラスを設置している。「バス停とのつながり」については、C案、D案では入口を変更して、バス停側の入口からそのまま延長線上に連続してホームが見えるようにしている。「テーブルや椅子および配置の工夫」については、カウンター形式の席、テーブル付きの席、ベンチなど座るだけの席など多様に配置している。「プラスαの機能」については、最も要望の高かった「店舗・コンビニ」は店舗側の採算を考えると現実的には難しいので設置せず、「親子向け」のうち「授乳室」はすべて設置し、B案、C案では子どもが靴を脱いで上がれるような小上りを設置している。また、C案では「地域・観光」の展示スペースを中央に設置している。

次に、これら4案に対して、ワークショップ参加者に付箋を渡した上で、大きな図面に直接意見を書いた付箋を貼って貰った。意見の内容は、いい評価(表中「↑」)、よくない評価(表中「↓」)、要望に分けられる。また、各グループについて大学院生サポートが話し合いの中で聞いた意見や感想(付箋に書かれたものではない)も表に含めている(表中「他」)。

全体として、各スペースや各部位に関する気に入った部分を中心としていい評価としての意見が多くなった。よくない評価は、安全性や使いづらさに関するものとして少しみられた。提案した学生がその場にいることもあり、よくない評価はしにくかったのかもしれない。また、4つの案を比較しての意見や特定の案を推すような意見はあまりみられなかった。一方で、案を作成した側としては、自分の考えたこと、工夫したところがうまく伝わっているのかを確認することもできた。









 	<ul style="list-style-type: none"> ↑ ③通路が好き ↑ ③道があると全て回れる ↑ ④なみなみが好き ↑ ⑥机の形と大きい窓が好き ↓ ⑥ガラス張りだと中も外も気まずい 要望 ①子供以外も使えるスペースの方がいい 要望 ②勉強スペースの窓にブラインドがほしい 要望 ⑤ヨギボーが欲しい 他 壁際、窓際のような端っこ空間が心地よさそう 他 パーソナルな空間が良さそう 他 ②窓際のデスクにペンダントライトを吊るアイデアは高校生にとっても好評だった 他 スロープの通路が良い <p>A案：中央の待合スペースの周囲を回遊できるようにし、それに沿うように天井からルーバーが連なり、宮津らしさを表現している。</p>	 	<ul style="list-style-type: none"> ↑ 空間の広さを変えられるのが好き ↑ ①回るのが好き ↑ 見上げて丸いのが好き ↑ ①回転扉とても良い ↑ ②床が出ているのがいい 他 ①子供は動くものが好きだから回転扉は気に入られそう 他 上を見上げて丸がいっぱいあるのはワクワクする 他 ①模型の回転扉を回すのが楽しそうだった <p>C案：床に丸く木を貼り、天井にもこの床に対応するようにルーバーを設置することで各空間の機能・エリアを表現している。中央に地域展示のスペースがある。</p>
 	<ul style="list-style-type: none"> ↑ ①稼働の間仕切りが良い ↑ ②一人一個の電気がめっちゃ良いと思う! ↑ ③窓の腰壁が低くて落ち着く ↑ ④扉が横に広いのがいい ↑ ⑤机の配置が好き、居心地よさそう ↑ 閉鎖感がないから好き ↓ ①安全は大丈夫か、子供は何でも触る 要望 なみなみの立体(3次元)がほしい 他 波々のルーバーが良い <p>B案：ホームやバス停側の外が見える位置にフレームを強調した開口部をあげ、カウンターやベンチにするなど、開口部とインテリアに特徴がある。</p>	 	<ul style="list-style-type: none"> ↑ ①ベランダ、電車を見るスペースとしてとても良い ↑ ①テラスでしかできないものがあると出たくなる、たとえばイルミネーションとか ↑ ルーバーがきれい 他 ①一両車両は停車しているのが見えにくいかも 他 ②出入口付近のルーバーは低い方がよい 他 水槽あったらいい、青色ほしい <p>D案：ホーム側にテラスを設け、ここでホームの様子を見ながら待つことができる。内部はエリアの境界、ベンチなどに沿ってルーバーを設置している。</p>

図4 新しい待合スペースとして最初に提案された4案

さらに関係者で話し合い、会議の際の防音性や非視認性も考慮して「会議スペースは入口奥に配置する」とし、また「開閉可能な区切りを想定する」「バス停とのつながり（視認性、アクセスしやすさ）をよくする」「利用頻度の高い高校生が使いやすい空間にする」など全体的な方向性を確認した。

6. 新しい待合スペースの最終提案

A・C案の回遊性、A・B案のホームに面したカウンター、A・D案のルーバー、C案の回転扉・丸い木を貼った床などを高い評価と判断し、これらを採用・統合して最終案を作成した(図5)。また、「外が見える開放的な空間」については、バス停側への入口の位置を変えることで、バス停側の入口からホームまで連続的に視線が通るようになっており、ピアノの横の開口部からも駅前広場の様子が見えるようになっていく。「テーブルや椅子および配置の工夫」については、ホーム側にカウンターを設置するとともに、待合スペース中央には地元の高校生が以前作成したベンチを活用した三角のベンチを設置し、より座り心地のよいソファも設置している。「プラスαの機能」のうち、「親子向け」としては、風除室横の授乳室を設置したほか、円形テーブル脇の小上りは子どもが靴を脱いで遊ぶことができる。「地域・観光」としては、コンコース近くのインフォメーションコーナーを設置し、運行状況案内システムや観光案内、地域の情報・展示の拠点として活用することを想定している。「飲食・店舗」は既存のカフェを中心に考えている。さらに、床に木を貼り、そのルートに沿うように天井にルーバーをつけることで天橋立の松並木や海岸をイメージさせる「宮津らしいデザイン」を目指した。

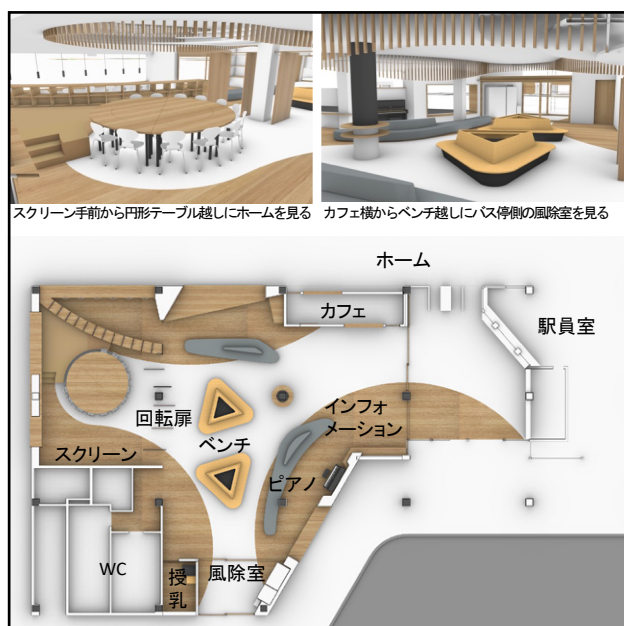


図5 新しい待合スペースの最終提案

7. 結論

今回の宮津駅における新しい待合スペースの提案においては、3回のワークショップとアンケートにより地域住民の意見を汲み取り、それを提案に結びつけるように努めた。

1) ワークショップの位置付け

第1回目のワークショップでは、参加者数は限られているが、様々な立場の人が参加していたこともあって、様々な意見を広く多く集めることができ、またその背景についても詳しく把握することができた。意見の中には、一部の人のとっては、とても必要度が高いというものも含まれるため、多くの種類の意見を集める上では効果的であった。

第2回目のワークショップでは、複数用意した提案をベースに意見を集めた。全体的に各部位に関する意見、いい評価が中心となるが、いい評価を見極める上では有効であり、それらを統合することで最終案につなげることができた。また、関係者も含め、意見交換を繰り返すことで、よくない部分・現実的でない部分を修正し、ブラッシュアップできた。

2) アンケートの位置付け

一方、ワークショップで集まった意見だけでは、どのくらいの利用者が必要としているのかどうか、必要度・要求度は分かりづらい。そこで、アンケートで数多くの人に聞くことでその必要度・要求度を判断することができた。以上から、ワークショップとアンケートの併用は有効であったといえる。もしアンケートだけで把握しようとするれば、一部の立場にとっては重要で欠かせない要素が見逃される可能性もあるので、併用することで両者の長所を活かしたと考える。

3) 今後の課題

今回の事例は、比較的小規模な駅における待合スペースであり、また利用者が高校生を中心としているなどの点から方向性を設定しやすい部分もあった。より大規模な施設であったり、多様な人が利用する施設においては、こうした方向性の設定が難しくなってくるものと思われる。

注・参考文献

- 1) 木下勇：『ワークショップー住民主体のまちづくりへの方法論』、学芸出版社、2007年
- 2) 久保貴生・高山琴名・原崇人・遠藤新：「住民参加による温泉地再生まちづくりの実践的研究（その1）」、日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1, pp. 995-996, 2017年
- 3) 木村智彦・櫻木耕史・清水隆宏・松本直司：「ワークショップの実施による住民意識の把握 中山道大湫宿の景観とまちづくりに関する研究 その2」、日本建築学会大会学術講演梗概集 E, pp. 725-726, 2018年
- 4) ワークショップ・アンケートは、宮津市と本学で話し合いながら計画したものを宮津市主催で実施し、さらに本学で基本的な計画案を提案した上で、実施設計から他の建築設計事務所に引き継いだ。